

最終報告会に向けて

M2ミドルリーダー養成コース 大平 慎悟
テーマ：協働的な組織文化の醸成一校内研修の充実を通してー



教職大学院での2年間において、理論と実践の往還を通じて自らの実践を省察できたこと、さらに、多くの人との繋がりを築くことができたことは大変貴重な経験となりました。

諸問題へのチームでの対応や教員相互の学び等の必要性が高まりを見せる中、学校における協働的な組織文化を醸成していくことの重要性も今後さらに増していくのではないかと考えています。最終報告会では、本研究での取り組みの実際と、成果・課題等について報告させていただきます。最後になりますが、実践研究にご協力くださった所属校の先生方、ご指導くださった教職大学院の先生方に対し、心から感謝申し上げます。

M2ミドルリーダー養成コース 葛西 彩
テーマ：よりよい人間関係を構築するための学級づくりのあり方ーSELー8Sプログラムを通してー



これまでの自分の教育活動について振り返ることができた2年間でした。1年目の講義や実習からは、自分が今まで知らなかったたくさんの学びを得ることができ、それらをどのようにいかすかを考えながら2年目の実践研究を進めてきました。

最終報告会では、SELー8Sプログラムの学習を実施した成果と課題について、アンケート調査から得られたデータ等をもとに報告させていただきます。最後に、授業実践に協力してください先生方、指導してください先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

M2ミドルリーダー養成コース 金田 大輔
テーマ：全ての生徒の教育的ニーズに応える個別最適化された授業の在り方ーUDLの視点を取り入れた協働的な授業実践を通してー



教職大学院に入ってあっという間に2年が経とうとしています。普通に教員生活をしていたらできなかった数々の経験や出会いは、教職という枠を超え自分の人生にとって

も大きな糧になりました。研究テーマである「学びのユニバーサルデザイン（UDL）」は、個別最適な学びが実現できる一つの答えだと感じています。最終報告会では、UDLという枠組みで生徒が活動したことや先生方と協働した実践について、分かりやすくお伝えできるように頑張ります。最後に大学院での学びの機会を作って下さったこと、私を支えて下さった勤務校の先生方、大学院の先生方、仲間たちに、この場を借りてお礼を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

M2ミドルリーダー養成コース 須藤 千代子
テーマ：知的障害特別支援学校小学部の生活単元学習における学習評価の在り方ー各教科等と関連づけた目標の設定と学習評価の方法ー



まもなく2年間の教職大学院での院生生活が終わりに近づき、寂しい気持ちが大きくなっています。特に1年次では、様々な講義や実習等を受ける中で、年代も校種も違う

院生のみなさんと熱い意見交流、省察を行ってきた時間は、私の中でも本当に貴重な経験であり、学びの多い充実した時間でした。この2年間の学びを、これから学校現場でどのように生かしていくのが新しい課題であり、還元できるように努めていきたいと思えます。これまで実践研究に協力してください先生方、ご指導くださった教職大学院の先生方に、心より感謝申し上げます。

M2ミドルリーダー養成コース 田中 美紀
テーマ：知的障害のある生徒に対するキャリア発達を促すホームルーム活動の在り方に関する研究ー目標設定、振り返りと対話に着目してー



学校種や世代の異なる仲間との学び合い、実習先で心動いた数々の場面、省察を繰り返し、じつくりと教育に向き合った昨年度。目の前の子どもたちと対話を重ね、成長に

喜びを感じた今年度。この2年間、多くの「出会い」と「気づき」がありました。日々後押しくださった勤務校の皆様、大切なことを教えてくれた子どもたちや保護者の皆様、温かく御指導くださった指導教員はじめ、教職大学院の先生方に心より感謝申し上げます。2年間を振り返るいま、もっと学びたい思っています。これからも「理論と実践の往還」に努め、「学び続ける教員」でありたいと思います。

M2ミドルリーダー養成コース 成田 悠仁

テーマ：子どもの学びの事実を見取り深める授業研究デザインー校内研修における授業参観と研究協議会を中心にー



研究が進めば進むほど、教師の仕事の原点は子どもたち一人ひとりに目を向け、その子に起きている学びのドラマを見取ることだと感じます。それはなにも個別最適な

学びがトレンドだからではなく、どんな方法論もボトムアップされたものでなければ机上の空論に過ぎず、その根拠となるものは私たち教師が見取った子どもの姿でなければならないと信じているからです。また、子どもたちの喜びや葛藤、成長を見取することは教師の魅力そのものであると思います。当たり前なようで忘れがちな教師の魅力を再認識させていただいた教職大学院の先生方と同僚に感謝しながら、2年間の学びの成果を発表できたかと考えています。

M2ミドルリーダー養成コース 平山 しのぶ

テーマ：自己効力感を育む授業づくりー生徒同士のフィードバックに着目してー



教職大学院では経験したことのないたくさんの方を学ばせていただきました。改めて自分の教師人生を振り返り、理想と現実のギャップを埋めるためにはどうしてい

くべきなのか、何度も悩みながら時間をかけ、仲間たちと話し合いを重ねてきました。他校種の方々や世代が違うストラスとの意見交換はとても貴重な経験であり、自分の財産にしていきたいと考えています。今後は、教職大学院で学んだことを生徒へ還元し、共に笑顔でいられるよう努力し、学び続けていきたいと思

M2ミドルリーダー養成コース 元木 龍太

テーマ：主体的な学習者の育成を目指す自主学習の指導ー一人一人に合った学習方略の活用を通してー



長い2年間だと覚悟していた大学院生活も、終わりが近づくと様々な想いが錯綜する今日この頃です。2月をもって、今回の研究は一区切りをつ

けますが今感じていることは「終わりではなく新たな始まりである」ということです。学べば学ぶほど、知れば知るほど、目の前の子どもたちのためにできることがもっとあるはずだという想いが強くなりました。「現場にいるからこそで

きること」に改めて邁進して行くと覚悟と志をもった次第です。結びに、たくさん時間を割いていただき多大なるご支援をいただいた吉田教授、惜しめない協力をしてくださった、高屋校長をはじめとする油川中学校教職員の皆さん、そして大学院で学ぶ機会を与えてくださった尊敬する恩師に、伝えきれない感謝を述べて新たなスタートといたします。ありがとうございました。

M2学校教育実践コース 伊藤 未祐

テーマ：言語活動の充実に向けた「学び合い」による授業実践



最終報告会が刻一刻と近づく中で、今、私自身の正直な思いとしては「2年間の学びの集大成を悔いなくお伝えできるだろうか」という不安があります。しかしながら、

教職大学院での学びを振り返ると、教育に係る様々な講義や観察・フィールド実習での学びを経て、「教師を目指す身」として、そして「一人の人間」として、確かに成長してきたと実感しております。何より、この2年間で大きな支えとなった仲間たちや先生方、子どもたちとの出会いが、私にとってかけがえのない宝物となりました。報告会では、これまで懸命に学んできたことへの自負と共に、周囲の方々に対する感謝の気持ちを込め、自信をもって最終報告会に臨みたいと思

M2学校教育実践コース 葛西 泉花

テーマ：保健だよりを活用した養護実践のあり方



この2年間、自分なりに理論と実践を往還して学んできました。実践研究自体が初めての経験で、壁にぶつかったり、迷ったりすることが沢山ありましたが、教授から

の熱いご指導やひたむきに学び続ける仲間の姿に何度も刺激を受け、ここまで学び続けることができました。また、実習校の先生方や生徒たちのおかげで、より充実した学びを得ることができました。この場をお借りして、関係者の皆様に感謝申し上げます。最終報告会では、2年間の学びの総まとめとして、また、今後の教師人生のスタートとして、成果と課題を発表したいと思

M2学校教育実践コース 仲村 みなみ

テーマ：より良い人間関係を目指した心の健康教育～アサーション・トレーニングによる自己表現力の向上～

2年前、教育学部の卒業を間近に控えた私は、教員として働くにはまだまだ自信と覚悟が足りませんでした。しかし、教職大学院での講義や仲間との出会い、たくさ



ん経験させていただいた教育実習の中で、私の中の教育観が育っていったように思います。子どもたちにどんな願いをもって接するのか、心身の発育だけでなく、一人の人間に成長していく上でどんな言葉をかけるのか意識するようになりました。来年度から県内の養護教諭として新たな人生を歩みはじめます。この2年間の学びを忘れることなく、現場に出た後も研究に取り組んでいきます。

ん経験させていただいた教育実習の中で、私の中の教育観が育っていったように思います。子どもたちにどんな願いをもって接するのか、心身の発育だけでなく、一人の人間に成長していく上でどんな言葉をかけるのか意識するようになりました。来年度から県内の養護教諭として新たな人生を歩みはじめます。この2年間の学びを忘れることなく、現場に出た後も研究に取り組んでいきます。

M2教科領域実践コース 木村 郷

テーマ：運動に対する好意的感情の向上を目指して—運動有能感からの検討—



これまで運動に対してどんなアプローチをすれば、好意的な感情を持つことができるのかを軸として研究してきました。体育の授業は子どもたちが平等に運動に親しむことのできる時間でもあります。

嫌になる瞬間にもなり得るという面も持ち合わせています。いかに後者の場面を減らし、運動することへの喜びや楽しさを感じさせることができるのかを追い求めて研究してきました。この2年間の研究と学びの成果を惜しみなく発揮し、これまで支えてくださったすべての方々への恩返しとなるような報告会にします。

M2教科領域実践コース 島津 杏佳

テーマ：生徒が主体的に参加できる中学校音楽科の授業づくり—「鑑賞」の授業における生徒の多様な「聴く姿」に注目して—



この2年間はとても大切な時間となりました。入学当初を振り返ると、教師という職に対して大きな不安を感じる毎日でした。多くの先生方や院生と出会い、色々な考え

方や視点に触れることで、自分の考え方や視点も日々深まっていったことを実感しています。また、他の院生の頑張る姿が刺激となり、苦しい場面も何とか乗り越えることができました。2年間の実習を乗り越えても、今後の教員生活に対しての不安が消えることはありませんが、明日も新しい自分に会えるように、緊張感を持って残りの時間を過ごしていきたいと思います。2年間の集大成となる最終報告会では、これまでの感謝の気持ちを忘れずに、自分の考えを伝えられるように頑張りたいと思います。

M2教科領域実践コース 中川 大輝

テーマ：地域教材を生かした社会科授業実践



教職大学院に来てからの2年間を振り返り真先に思うことは自分にできることがあまりにも無いということでした。教員としての知識も欠けており、技術的な部分も不足しており、社会に出る人として身につけるべく能力も欠けていたように思います。その都度、なんとかしなければと自分を変えようとしたのですが、それでもまだまだ足りないものが多いように思います。残された時間を少しでも有効に使い、新年度から頑張っていく所存です。

M2教科領域実践コース 中島 柁太

テーマ：中学校数学における自己内対話を活かした授業の研究—吹き出しを活かした振り返り活動—



私は教職大学院での2年間で、「物事を深く考えること」「活動を振り返り、次に活かしていくこと」の2つの力を伸ばすことができた振り返っている。ただ新しいこと

に挑戦し続けることだけを繰り返していた以前の自分とは異なり、一度立ち止まって考えることができるようになったことで、新たな発見も増えたように感じている。この経験を踏まえ、生徒の立場に立つことを意識して考えた自分の研究の成果を、今回の発表会で報告したい。

M2教科領域実践コース 濱谷 大輔

テーマ：中学校数学科における数学の有用性を実感できる学習指導—数学的モデル化に焦点を当てて—



教職大学院での2年間は非常に「密」な時間でした。講義、実習、研究と、どれも大変な活動ではありましたが、今の私にとって欠かすことのできない貴重な経験となっています。

また、その過程においては院生や大学教員の皆様、実習校の先生方や生徒等の様々な出会いもありました。皆様の助けが無ければ、研究はおろか学生生活すらやり切れませんでした。本当に感謝の気持ちで一杯です。この想いを大切にしながら、最終発表会ではひとまずの集大成として自身の研究を発表させていただきます。そして、生徒が成長できる教育実践を目指して、今後の教員生活につなげていきます。

M2 教科領域実践コース 三浦 峻敬

テーマ：中学校数学科における学びに向かう力の育成—粘り強く考える態度を養う授業づくり—



教職大学院での生活は、振り返るとあっという間の出来事のように感じられますが、とても中身の濃い2年間でした。個性豊かな仲間と共に学んできたこの経験は、今後も自分の中の核として残っていくと思います。報告会では学びの集大成として、これまでの研究の成果を報告します。入学時と比べると、まだまだ未熟ではありますが、教員としての力と自信をもって現場に出ることができると思います。教職大学院での学びを胸に、青森県の教員として邁進していきます。ご指導くださった先生方、院生の皆さん、本当にありがとうございました。

M2 教科領域実践コース 宮野 純

テーマ：高等学校生物における思考力を育成する授業づくり



教職大学院に入り、早2年が経とうとしています。時が過ぎ去るのは本当に早いと感じています。教職大学院での学びは私にとって非常に充実していました。また、教育実習も充実しており、素晴らしい環境で実習できたことは私の財産になりました。さらに、共に助け合っていく仲間の存在が、ここまで行くまでの大きな存在になりました。総じて、教職大学院での2年間の生活は、大変でありながらも濃密で楽しい2年間でした。本当にありがとうございました。

教職大学院に入り、早2年が経とうとしています。時が過ぎ去るのは本当に早いと感じています。教職大学院での学びは私にとって非常に充実していました。また、教育実習も充実しており、素晴らしい環境で実習できたことは私の財産になりました。さらに、共に助け合っていく仲間の存在が、ここまで行くまでの大きな存在になりました。総じて、教職大学院での2年間の生活は、大変でありながらも濃密で楽しい2年間でした。本当にありがとうございました。

M2 教科領域実践コース 森川 喜介

テーマ：数学の楽しさを味わわせる授業づくり—生活や学習に活かそうとする態度の育成を目指して—



大学院生活を振り返ると、多くの方々に多くのことを学び、助けていただいた2年間でした。2年前、理工学部出身で同期と比べて知らないことやできないことが多かった

私がここまで成長できたのは、人に恵まれたからだと思います。2月に大学院生活の集大成として最終報告会に臨みます。研究の成果を発表するだけでなく、講義で学んだことと実習で経験したこと、理論と実践の往還を繰り返して成長した姿をお見せしたいです。また、学んだことを胸に来年度から教員として頑張ります。

M2 特別支援教育実践コース 野村 直樹

テーマ：知的障害特別支援学校におけるホームルーム活動を中心としたキャリア発達を促す授業実践—「なりたい自分」を踏まえて生徒が設定する目標と協働的な振り返り—



教職大学院での2年間は、沢山の人たちに支えていただいたおかげで走り続けることができました。研究活動や教師としての在り方についてご指導いただいた菊地先生、

授業や全体ゼミで様々な視点のご意見をくださった教職大学院の先生方、大変手厚くご指導くださった実習校の先生方、意欲的に授業に取り組んでくれた生徒の皆様、共に学び合った院生の皆様、関わってくださった皆様に感謝しております。弘前大学教職大学院での学びを沢山の人の元に還元できるように努めて参ります。2年間ありがとうございました。

年次報告会に向けて

M1 ミドルリーダー養成コース 安保 愛子

テーマ：低・中学年におけるケア的思考の醸成を基盤とした自治能力の向上



子どもたちが「どうしたら楽しく、安心・安全に学校生活を送ることができるか」を考えながら教職大学院での学びを進めてきました。講義や院生同士の意見交流、実習

や省察の中でたくさんの理論を学び、「ケア的思考の醸成」にたどり着きました。子ども同士の対話や交流を通して安心・安全な共同体づくりを重視し、多様な考えや思いを認め合い、創造しながら学校生活を送れる取組を充実させたいと考えています。協力して下さる勤務校と温かくご指導くださった教職大学院の先生方に感謝し、来年度のよりよい実践研究につながる報告会にしたいと思います。

M1 ミドルリーダー養成コース 大池 由紀子

テーマ：小規模の小中一貫校における教師の協働的な授業デザイン—校種を超えた異学年交流を取り入れた授業実践を通して—



授業が活性化されない、学びが深まらない原因を「子どもの人数が少ないから」と思っていたのですが、カリキュラム・マネジメントが足りなかったのだとわかりまし

た。これまでは、学習指導要領や教科書に縛られ、教材の部分しか工夫していませんでした。しかし本来、教師はもっと自由に、創造的に授業をしてもいいはず。本研究には「もっとこんな授業をしてみたい」という教師のワクワク感が増えてほしいという私の願いを込めています。勤務校と学区内の小学校の先生方におかれましては、一貫校に向けた準備でご多忙の中、アンケート等でご協力いただき、感謝申し上げます。来年度は、先生方と子どもや授業について熱く想いを語り合いながら実践していきたいと思ひます。

M1ミドルリーダー養成コース 葛西 史生
テーマ：生徒の自学自習を促す内発的動機づけ方略の検討—評価とフィードバックのあり方に焦点を合わせて—



これまでの教育実践と教職大学院の学びから、生徒が自ら課題を見つけ、それに向かって粘り強く学習に向かって行く姿勢を身に付けるための支援について考えるようになりました。そこで、生徒の内発的動機づけが高まるのが重要であると考え、本研究に取り組むことにしました。年次報告会を通して、これまでの研究を整理し、新たな課題を発見したいと考えています。これまで支えていただいた教職大学院の先生方や勤務校の皆様へ感謝し、研究を深めて行きたいと思ひます。

M1ミドルリーダー養成コース 柏崎 康司
テーマ：よりよい学校生活に向けた行動変容—多元的な非認知能力獲得のための介入—



勤務校の生徒たちは、『「夢・挑戦・感動」～夢に向かって挑戦し感動できる生徒の育成～』という学校目標のもと、純朴な人柄をいかし、日々明るく、元気よく活動しています。その良さを更に伸ばし、そして「よりよい学校生活」を実現するため、あるいは卒業後の生活をより豊かにするために、非認知能力の獲得が必要であると考え、本研究に取り組むことにしました。熱心にご指導して下さった教職大学院の先生方、勤務校実習の際に、インタビュー調査やデータ収集に協力して下さった先生方に感謝し、来年度の実践研究につながる年次報告会にしたいと考えています。

M1ミドルリーダー養成コース 工藤 渉太
テーマ：1人1台端末に対する教師の意識変容～教育活動全体での活用を通して～

教職大学院での1年間を通して、子どもにとって、



教師にとって「学び」とは何かということ問い続けています。そしてこれまで私自身が子どもたちから多くのことを学んでいたこと、関わってきた先生方に支えられ、学ばせてもらっていたことに改めて気づきました。Society 5.0を生きる子どもたちにとって必要な力に身につけるために、「1人1台端末」を活用した「他者との協働」「知識・情報の共有」について、先生方と共に考え学びたいという思いで研究テーマを設定しました。大学院での学びを勤務校の先生方や子どもたちに少しでも還元できるように、今後の実践をより良いものにしていきたいと思ひます。

M1ミドルリーダー養成コース 佐藤 大記
テーマ：病弱教育における児童生徒の自己肯定感を高めるための支援方法と教員の体制に関する研究



勤務校に赴任してから感じていた「本校の児童生徒に不足している何か」を考え、教職大学院での学修をとおして見えてきたものが自己肯定感の低さでした。これからの急速に変化する予測困難な社会に対応し、積極的に社会参加できるようになるためにも、自己肯定感を高めることが重要だと考えます。そのために私たち教師は児童生徒にどのような支援をすべきか、チームとしてどのような体制で支援にあたるのが有効なのかを、本研究によって明らかにしていきたいと考えています。これまでお力添えいただいた教職大学院の先生方、調査研究に御協力いただいた勤務校の先生方に感謝し、実りある実践研究に結び付けられるよう、研鑽を重ねたいと思ひます。

M1ミドルリーダー養成コース 寺山 陽子
テーマ：自ら学ぶ意欲を引き出す「一人ひとりに学びがある授業」づくり～中学校「道徳科」の校内研修を通して～



教職大学院での学びや院生室での対話は、新しい発見や気づきの連続でした。それらは私にこれまで見えなかった世界や、見ようとしていなかった世界を見せてくれました。実践研究では「自分の中の好奇心」と「目の前の子ども」、「勤務校や同じ校種の先生方に還元できること」を繋ぎ、核になるものをテーマとしました。今年度

ご指導くださった大学院の先生方、勤務校の先生方に感謝し、次年度につながる報告会にしたいと思います。

M1 ミドルリーダー養成コース 雪田 聡
テーマ：高校数学における学力の類型化とそれに基づく指導と評価のあり方に関する検討



教職大学院での1年が終わろうとしています。授業や実習等を通して多くの知識を身につけることはもちろんですが、考え方を磨くことができたと感じています。また、

ストレートマスターの院生と共に授業を受けることで、新たな気づきや刺激を受けることができ、ミドルリーダー養成コースの院生と校種を越えた対話ができただことは貴重な経験となりました。大学での学びに必要なのは知識を暗記して再生する力ではなく、学んだことを使いこなして論じ、表現する力であると身をもって知りました。大学等や社会へつなぐ役割を持つ高校ではどのような生徒を育てるのかを考え続けることが大切であると感じています。

M1 学校教育実践コース 鳥元 帆乃佳
テーマ：生徒の心の健康の向上を目指した保健室前廊下の掲示物―「子どもの人権」の観点から―



私は保健室での対応を通して生徒が訴える身体症状の背景には人間関係の悩みなどさまざまな要因があることを実感しました。そこで、生徒が自ら問題に気づき、解決し

ていく力を育てることを目的として、子どもの権利の観点から生徒の心の健康に働きかける保健室前廊下の掲示物のあり方についての研究を進めています。生徒が子どもの権利に照らして自分の悩みや問題を捉え直し、よりよい解決に結びつくような掲示物を目指して、次年度につながる発表にしたいと思います。

M1 学校教育実践コース 新田 ひかり
テーマ：三角ロジックを活用した国語科授業実践―根拠のある考えの形成を目指して―



私は根拠のある考えの形成を目指した国語科授業実践についての研究を行っています。「根拠のある考えの形成」は、平成29年度版中学校国語科学習指導要領から課題として明文化され、

解決を目指し指導事項や評価規準が設定されました。この課題を解決するための効果的な

方法として、今回鶴田清司の「根拠・理由・主張の3点セット(三角ロジック)」を活用した授業実践を提案します。自身の研究が、国語科の抱える課題を解決する一助となることを願い、年次報告を行っていく所存です。

M1 学校教育実践コース 藤田 晟雅
テーマ：すべての児童が参加し学びの楽しさを実感できる算数科の授業を目指して―授業UDの視点を中心に―



授業UDの視覚化・焦点化・共有化を中心として取り入れた授業を実践しました。児童の実態を把握し、より効果的な教材や教具、授業の展開

を考えるのがとても難しかったです。年次報告会では、どのような実践をしたのかや成果と課題などをより詳細にし、報告したいと思います。また、質疑応答などでさらなる課題が見つかり、来年度の実践をより良いものにすることができると感じています。機会を活かし、自分自身の成長に繋げていきたいです。

M1 教科領域実践コース 板垣 侑磨
テーマ：運動嫌いを減らす授業づくり



私は体育の授業における運動の楽しさに着目しています。年次報告会では、これまでの授業実践から得られた成果や課題を、1年間の学びのまとめとして発表し、その結果をもとに今後の研究をどう展開していくかについて

も伝えていきます。また、たくさんの方からの意見をいただきたいと考えており、自身のさらなる成長へとつなげていきたいと思っています。

M1 教科領域実践コース 猪股 由惟
テーマ：小学校外国語科におけるタスクを基盤とした授業の意義と課題―Task-based Language Teaching の実践的検討を通して―



小学校学習指導要領外国語編では、「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」の育成が求められています。そこで私は、育てたい児童の姿を「間違いを恐れず

にコミュニケーションを図り、外国語で伝え合う楽しさに気づいている児童」としました。英語科教育学について学ぶ中で、Task-based Language Teachingに出会いました。児童の伝え合う実感や達成感を重視し、目標言語を実際に使いながらタスクを遂行することで

言語習得を促進する教授法です。今年度は、この教授法の実践を通して、児童の発話に生じる変化に着目して研究を進めてきました。実習校の皆様と教職大学院の先生方に感謝しながら、次年度につながる報告会となるよう頑張ります。

M1 教科領域実践コース 瓜生 太知
テーマ：生徒の興味・関心を向上させる理科授業～日常生活と関わる課題を用いることの効果について～



今年度のフィールド実習や集中実習での実践の中で得られた成果や課題を報告書という形でまとめることが出来ました。来年度の実践のヒントとなることを一つでも多く吸収できるようにありある報告会にしたいと考えています。そのためにも自分が今までやっていたことをしっかり発表できるように頑張ります。

M1 教科領域実践コース 古川 冬真
テーマ：中学校体育授業における運動習慣の獲得を目指した授業づくりについて～過性運動に伴う肯定的感情に着目して～



私の研究は生徒が将来、運動習慣を確立することができるために、体育授業で楽しいやワクワクする等の経験を多く得られるための授業づくりをすることです。この研究を進めていくために、今年は生徒理解に努めてきました。私の研究は生徒の実態と照らし合わせて授業を考えていかなければならないため、今年一年の取組は来年度の授業づくりの際に、土台となるようなものです。今年度の調査等をしっかり考察して授業づくりの方針を定めて、来年度の授業実践に活かしていきたいと思っています。

M1 教科領域実践コース 佐藤 陽奈子
テーマ：小学校英語教育における学習意欲を高める授業づくり



私は、外国語を学ぶ際に生じる心理的な障壁に対して課題意識を持ち、人間関係の深まりに着目しながら学習意欲を高める授業の在り方について研究を進めてきました。

今年度は、児童同士の関係性を広げ深めるコミュニケーション活動为目标とし、外国語の授業実践を行いました。これらの実践を通じて、学習に取り組む上での不安要素を取り除くためには、ともに学ぶ仲間の存

在や温かな授業環境が必要不可欠であると考えます。今後は、年次報告会に向けて、これまでの成果や課題を整理するとともに、次年度の研究へとつなげていきたいと考えています。

M1 教科領域実践コース 高田 真那
テーマ：授業のユニバーサルデザインを通して、「参加する」から「理解できる」小学校国語科授業づくり



今年度は授業のユニバーサルデザインを通じた全員参加を目指した授業実践に取り組んできました。具体的な手立てを取り入れながら、児童が授業に興味を持ち、安心して授業に取り組むことができるように意識して実践を行ってきました。まだまだ未熟なところも多く、課題も多いですが、1年を通して学んだことを年次報告会で報告することができればと思います。そして年次報告会では様々なご意見をいただきながら、来年度の研究に活かしていきたいです。

M1 教科領域実践コース 土田 康裕
テーマ：素朴概念を変容させるための授業づくりとはなにか



私は素朴概念と科学的概念の接続・照合を通して科学的な見方・考え方の育成やメタ認知能力の育成を目的とした研究を行っています。理科においては知識が断片的なもの

ではとどまらず、その背景にある理論について深く理解することが重要です。そのためには、学んだことを知識として定着させるのではなく、そこからさらに日常生活と結びつけて自分の感覚と知識の違いについて考えをめぐらせることが出来るような仕掛けを作る必要があります。年次報告会では本年度の実践の成果と、来年度の実践に向けてどのように新たな取り組みを行っていくかを発表出来れば良いと考えています。

〈編集・発行〉

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻
 (教職大学院) News Letter 第18号 2023.2.1発行
 〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
 Tel 0172-36-2111 (代表)
 メールアドレス k-daigaku01@hirosaki-u.ac.jp
 HP 弘前大学教育学部 (教職大学院をクリック)
 弘前大学教職大学院 入試フォローアップ部会